

何も思い出したくない、何も触れたくないというのがム - 大陸に向けたときの私の最初の思いでした。私は何も悪くはない、私は認めない、ただこの心の中に記憶している思い、エネルギー - はとてもとても苦しいものでした。息ができないくらい苦しいものでした。

過去、大陸を何度も何度も沈めました。たくさんの方の命を一瞬のうちに奪い取ってしまいました。私は過去においてずっとアマテラスの予言者でした。神の言葉として神からの予言として私はみんなに伝えてきました。その言葉一言で大陸が沈んでいきました。私は忠実にアマテラスの思いに忠実に従っていただけでした。それがこんなこんな恐ろしい結果になるなんて、

罪の意識に苛まれ^{さいなまれ}そして隠しておきたい暴かれない思いのままでいました。それを田池留吉のあの波動いえ姿を見ただけで、この私の過去の過ちがすべてあからさまになっていくのです。何で今ごろ出てきたんだ、隠し通してきた私のこの罪をお前は暴こうというのか、この思いが田池留吉に対してははっきりと出てきます。アマテラスとともにこの地球にやってきた私は、散々この地球を破壊してきました。何度生まれ変わり死に変わりしても私はアマテラスのエネルギー - そのままでした。

それが今世やっと私の中のアマテラスを供養

する機会を頂きました。宇宙で地球でこのアマテラスのエネルギー - に翻弄され続けてきた私は、やっと本当の自分に出会えるその時間を持たせてもらいました。私は田池留吉とともにアルバ - トとともに歩いていく意識であることをこの心で知りました。

アメリカの地でアルバ - トと出会いそして私はこの日本でともに学んだことを思い出します。ともにともに歩いていく意識でした。アルバ - ト、アルバ - ト、田池留吉とアルバ - トは同じでした。嬉しい、嬉しい、嬉しいです。ありがとう、ありがとう、ありがとう。